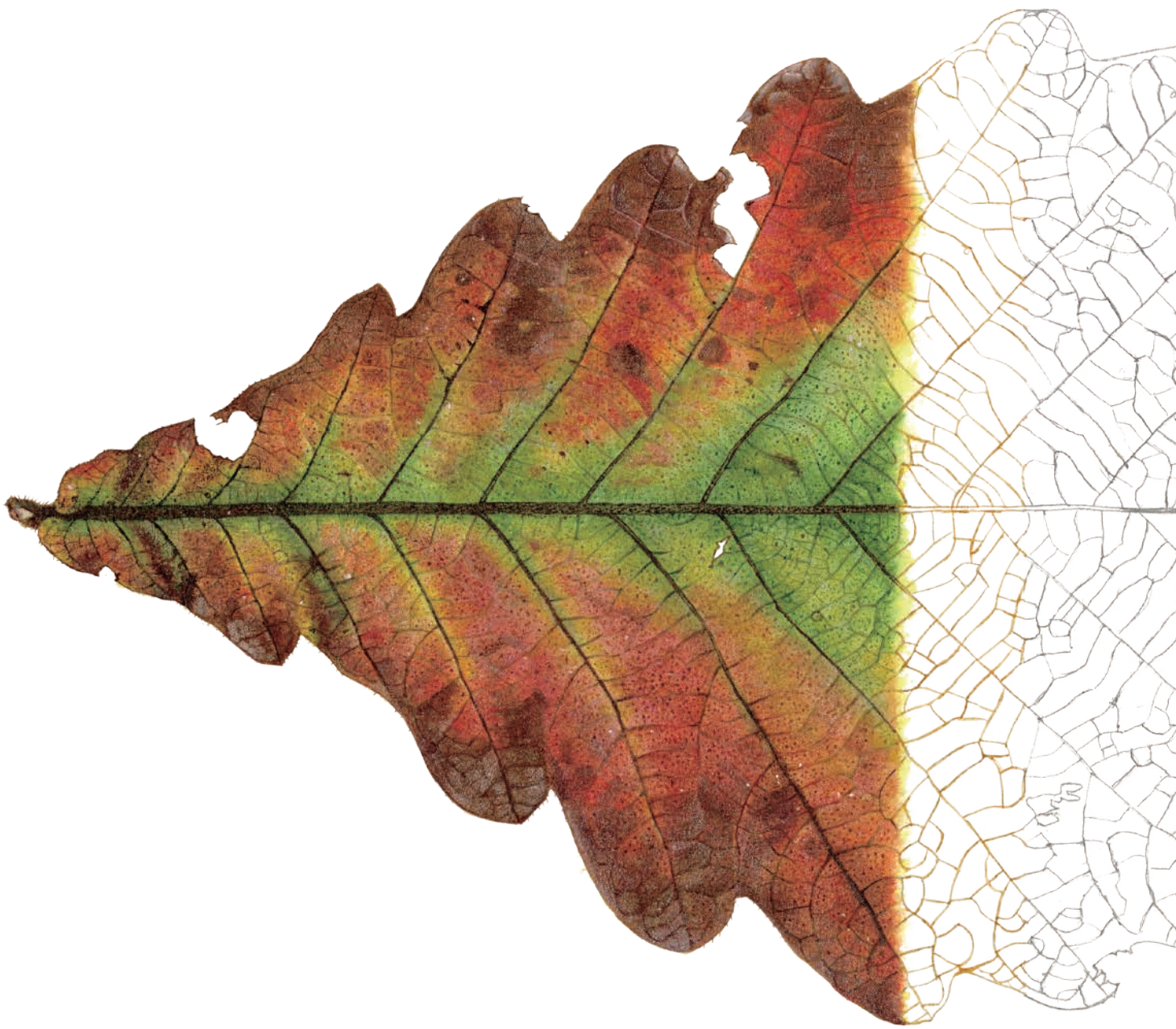


YAMATO Nature Circle



2026年3月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.85

— 絵と文 群馬直美 —

想像は現実となる《カシワ その1》

「うわぁ、きれい!」

11月の終わり、ヤマトビオトープ園のカシワの木の葉が美しく色づいていた。

今回は、カシワの葉っぱにしよう! 大きいのを3枚と小さいのを1枚いただく。

採ってきた葉っぱを立川のアトリエで眺めていると、1枚の葉に心が奪われた。

それは、縦長の葉っぱを横向きにしたときのこと。

異なる二つのイメージが、くっきりと浮かび上がったのだ。

この葉から読み取ったことをみんなに伝えるには、どうしたらいいのだろう……。

1枚の葉を3回に分けて描き、最後に全体像。——という斬新な連載を思いついた。

こんなマニアックなことをしてもいいのだろうか? という思いもよぎったが、

それ以上に『身近な葉っぱを丹念に見てありのままに描く』

新たな切り口へのワクワク感が止まらない。

天から降りてきたひらめきに素直に従うことに。

人生挑戦あるのみだ!

その第一弾が、カシワの葉を半分まで描いた今回の絵。

右上の虫に喰われた部分が、

言い争っている人の顔みたいだ……と思い、

ゆっくり丁寧に描いていたら、なんと、身の回りで言い争う人たちが続出。

わたしはヘトヘトになり、〈イメージしたことが現実を創り出す〉ことを

いやというほど思い知るのだった。

なので皆様、どうかこの葉の虫食い部分を

〈言い争っている人〉とは見ないでください。

どうか〈喜びの歌を歌いあっている人〉の姿を想像してください。

ひとりひとりの心の内が、喜びに満たされますように。

《表紙の絵》カシワ その1(部分)

「美しい木の葉の中に言い争う人の姿?

いやいや、喜びの歌を歌いあっているところ!」

・ヤマトビオトープ園にて2025年11月25日採集

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目640g)/テンペラ

・size:380mm×270mm

©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。2006年より世田谷美術館「美術大学」で葉画講師として身近な葉の美しさ、素晴らしさを伝え続けている。2019年、『下仁田ネギの一生』の組み作品で、英国王立園芸協会主催植物画展で金賞及び最高賞受賞。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』『Dancing Vegetables 踊る野菜』他。 <https://www.wood.jp/konoha/>